

# 日本英学史学会 中国・四国支部

## ニューズレター

No.67

*Historical Society of English Studies in Japan, Chugoku-Shikoku Chapter*

### 松村幹男先生の思い出

松岡博信

松村先生が亡くなりました。お葬式に参列し、会葬御礼に挟まれていたご自筆のメモのコピーには、余命1ヵ月と医師から宣告された時の「1ヵ月で何ができるだろう」と研究者として戸惑う気持ちが述べられていた。実際にはその時点から僅か1週間で亡くなりましたことを思うと、何ともやり切れない気持ちになった。

松村先生と初めてお会いしたのは、今から約23年前である。私が高等学校教員を辞して大学院進学を決意し、そのためにまず研究生になろうと先生の千田町校舎の研究室を訪ねた。当時の研究室は、失礼ながら大変古かったが、天井がやたらと高かったのを覚えている。その後、結局私は学校教育研究科に入学して五十嵐先生、小篠先生のご指導を仰ぐことになるが、当時の教英3年生に交じって受講した「英語教育史」における松村先生の講義内容には大いに惹かれた。先生は毎日のように血管注射跡の絆創膏をして来られ、暑い盛りを栄養剤の注射で乗り越えられておられた。旅行に行かれたら必ずと言っていいほど、院生たちにお土産を買ってこられる優しい先生でもあった。

その後も、とりわけ英学史学会を通していろいろなことを教えていただいた。しかしながら、もう5、6年以上も前になるが、ある研究会の後の懇親会で同席になったときに、先生のお話がお酒も手伝って一方的な議論となったことに憤慨した私が、大変失礼な言葉をお返ししたがため、先生は激怒され、すぐさま帰られた。それなのに、2、3日して先生から大変丁寧な謝罪のお手紙をいただいた。謝らなければならないのは私なのである。私は涙が出た。もちろん、恐縮してすぐに私もお詫びのお手紙を返した。そのようなことがあったにもかかわらず、後に英学史の例会でお会いしても、先生はいつも大変優しい会釈をしてくださり、松村先生の懐の深さと寛容な心に改めて尊敬の念を抱いたものである。そのような先生だからこそ、研究者としての真摯で誠実な生き方とあの優しい笑顔は、先生の教えをいただいたものの胸に、いつまでも生き続けると私は信じる。

松村幹男先生のご冥福を心よりお祈りしたい。

(副支部長 / 安田女子大学)

## 日本英学史学会 中国・四国支部 平成23年度総会

### 第1回(通算64回)研究例会 報告



日本英学史学会中国・四国支部 平成23年度総会、及び第1回(通算第64回)研究例会は以下の通り開催され、盛会裏に終了いたしました(参加者26名)。ご参加くださいました皆様に、心より厚くお礼申し上げます。

#### プログラム

日時： 2011年5月28日(土) 12:30 受付開始

会場： 県立広島大学 教育研究棟1(1階) 1175 講義室

〒734-8558 広島県広島市南区宇品東1-1-71

TEL 082-251-5178 (代)

#### 支部総会 (13:30~13:50)

議長選出、前年度活動報告、会計報告、会計監査報告、平成23~24年度役員選出、新年度活動計画

#### 開会行事 (14:00~14:10)

支部長挨拶

#### 研究発表 (14:10~15:20)

司会： 保坂 芳男(立命館大学)

『英語発音秘訣』の著者・菊池武信の英語習得

安部 規子(有明工業高等専門学校)

#### 研究発表 (15:30~16:40)

司会： 松岡 博信(安田女子大学)

明治期の英語読本独習書に関する研究：ウィルソン・リーダー独案内を中心として

馬本 勉(県立広島大学)

#### 閉会行事 (16:45~17:00)

副支部長挨拶、写真撮影

#### 懇親会 (17:30~19:30) 大学食堂にて

## 研究発表

『英語発音秘訣』の著者・菊池武信の英語習得  
安部 規子 (有明工業高等専門学校)

【概要】今回初めて発表させていただきました。内容は、日本の英語音声学書の始めと評される『英語発音秘訣』の著者菊池武信について、その履歴の空白部分となっていた英語習得法に関するものでした。菊池は、故郷柳川で英学を始め、明治4年に藩命により上京後、外国人居留地で英語、普通学やオルガンを学んだことが新たにわかりましたが、当時の居留地での宣教師達の活動や英学塾、特にブラウンの英語発音指導、オルガンや賛美歌と日本の音楽教育との関わりなど、知らないことばかりで一夜漬けの受験勉強のような発表準備でした。当日はご出席の先生方から柳川英学校や貢進生制度について課題を示唆いただき、ありがとうございました。司会の保坂芳男先生にもいろいろお助けいただき、お礼申し上げます。

## 【参加者の感想】

菊池の人物像が着実に明らかになりつつあることを喜ばしく思います。個人情報の調査が難しくなってきたり制約が大きい中、引き続いてのご研究を期待しております。<Dragon>

膨大な資料を収集し、調べられていることに敬服です。仲々、菊池武信の英語習得に関する研究労力は大変なものだと感じました。やはり、発音等の英語力向上には周囲の人たち、特にすぐれたネイティブの人からの教示が大きいのでしょうか。ありがとうございました。<上西幸治>

菊池武信について初めて知りました。今後とも調査を継続されて、菊池の英語習得の解明にご尽力ください。楽しみにしております。<Emma>

英語学習の背景として、歴史的、文化的な結びつきの重要性:(英語 聖書 讃美歌 オルガン)が実証されて、大変興味深く伺いました。<くりす>

「菊池武信」とは『英語発音秘訣』を書いた英学者という認識しかなかったが、音楽学校に勤務した等、さまざまな経歴がわかり驚いた。彼はキリスト教の信者であったとのことから、菊池にとっての英語学習は学問のためではなく、聖書を原書で読み、そこから人生の指針を得るためのツールであったと思われる。その目的、学習手段から彼が英語を習得できたのは納得できるような気がする。また、「菊池武信」の研究、調査を続けておられる安部先生の熱意が、菊池への興味をかき立てた。つぎのご発表を楽しみにしています。<Rainbow>

音楽取調掛としての菊池武信。警察署勤務の菊池武信。異色とも思える職歴の持ち主を、英語発音に関する書物の執筆に駆り立てたものは一体何だったのでしょか。歴史的ロマンを感じずにはいられません。第一次資料を求めて東奔西走されているご研究に敬服します。次回のご発表を楽しみにしています。<堂鼻康晴>

菊池武信の履歴と交友関係がかなり詳細に知ることが出来た。安部先生の探求に対する並々ならぬ情熱に頭が下がった。<風呂呂肇>

福岡出身の安部先生らしい地道で丁寧な発表でした。英語教師、音楽教師、警察勤務などユニークな経歴が大変面白かったです。『英語発音秘訣』のさし絵がかなり専門的ですが、誰が書いたのか。菊池のオリジナルか 転用か 大変興味があるところです。

<保坂芳男>

英語教育関係の全国大会でも最近では、外国語としての英語発音に関する発表はきわめて少ない実状であるように思う。本発表は、英語音声の基礎・基本の重要性を、あの混沌とした明治初期の英語教育界で発表に見られるような大いなる警告を発している点で注目に値する研究である。実用面の英語音声と教養面のそれとの比較研究も面白いものがあるように思う。ご研鑽を期待している。<五十嵐二郎>

菊池の職歴と学習歴についての詳しい研究ありがとうございました。<Kshu>

今回も隅々までよく整理・整頓された研究デザインのもと、マルチ人間 菊池武信の英語修業の過程、実態がくっきりと浮き彫りになり拝聴していても爽やかな気分になりました。どの部分が既知の事柄(旧情報)で、どこが新発見(新情報)なのか峻別されており、研究者のお手本を見るようでした。居留地での英語修業の前段階、すなわち柳川時代に菊池がどのような学習環境、学習方法で英語の「基礎固め」をしたのか詳しく知りたくなりました。

<もみじまんじゅう>

菊池の英語習得について、ブラウンにならただけでなく、どのように、どのような言語材料を使ったか知りたかった。Bible を使っただろうか？

< dreamer >

多様な職歴 (p.6) とあるが、例えば小学校・中学校での授業内容などの細部に関しては全く不明なのでしょうか？ < 古川正昭 >

菊池武信については、ほとんど知らなかったので興味深く拝聴した。安部先生が履歴書等の多くの資料を丹念に調査して彼の人物像に迫ったことに感心した。明治初期の時代に『英語発音秘訣』を出すほどの英語力を身につけたことは驚くべきことだが、あまりにも多様な職歴から、A rolling stone gathers no moss. を思い出し、その意味を考えてみたが、やはり有能な人は引っ張りだこになるのかなあと感じた。

今後期待したいこととして、タイトルの「英語習得」ということから、もっと具体的にあの時代に彼がどのような指導を受け、学習したのかに迫っていただきたいと思います。 < Shoko >

菊池武信英語習得の時代背景と柳川藩との関わりを初めて知りました。1859年(安政6年)へボン、ブラウン、フルベッキーの来日が当時の英語指導に多大な影響を与えたこと 特に宣教師フルベッキー、ブラウンと菊池の出会いがキリスト教の聖書翻訳や讃美歌に関わることでネイティブスピーカーから phonetic laws を習得したのではなからうか。興味津々たるものがあり大変新鮮味を感じました。

< 山田宗八 >

## 研究発表

### 明治期の英語読本独習書に関する研究： ウィルソン・リーダー独案内を中心として

馬本 勉(県立広島大学)



【概要】明治初年の国語教科書『小学読本』の原本である『ウィルソン・リーダー』は、英語教科書としても広く用いられ、翻刻版や独習書も多数出版さ

れているが、その独習書に関する研究は十分ではない。発表者はこれまでに、ウェブスターの『スペリング・ブック』やバーンズの『ニュー・ナショナル・リーダー』の独習書について調査を行ってきたが、その一環として『ウィルソン・リーダー』独習書を取り上げた。発表では、独案内発行の状況や、類型化などを試みたが、「分析の視点」をどうするか、まだまだ課題は多い。フロアから頂いた様々なご指摘に心えられるよう、今後も調査を続けていきたい。ありがとうございました。

### 【参加者の感想】

ウェブスターのスペリングブック、ウィルソン・リーダーと原読本ごとに取り上げておられますが、独案内を分析する観点自体を明確にされないウィルソン、ロングマン、ナショナル等それぞれの独案内の特徴と言えるものが抽出し得るのか、或いは独案内というジャンルの中で共通に見られる下位项目的な特徴が抽出できて、それが年代を追ってなにがしか発展が見られるというように分析できるのか、等々、さまざまな要因が出てきて収束の方向が見えにくくなるのではないかという心配が残ります。これは馬本先生の問題意識でもあるようですが、更に併せて、日本語文体の発達史に関わるものかどうかなども気になるところです。(国語学の松村明氏は英会話書の分析を通じて明治期日本語の発達史を研究しておられます。)

また、昔の生徒がこれをどう使ったかというような資料があると面白いと思います。 < Dragon >

これだけ多くの独案内が出版されていたことに驚きました。これからも収集と調査を続けられ、独案内の英語教育史上の位置づけを明らかにしてください。 < Emma >

今回初めて独案内の実物を手にとって見せていただきました。馬本先生のご発表から、独案内には、英語学習が困難であったからこそ生み出された工夫や知恵が読み取れ、その工夫は現在の学習者とも無縁ではないことが分かりました。私は「先生、この文はどこから訳したらいいんですか、まず最初のIを訳して、次に一番後ろのyesterdayを訳して、次に真ん中あたりを訳すんですか？」というような質問を今でも時々受けます。訳の順番を番号で記してある独案内は、時代が変わっても日本人学習者が感じる困難を写しだしているようです。 < 安部規子 >

独案内が日本人の英語学習法の原型、教授者の teacher's manual の源流につながる知見は興味深く感じました。 < Kshu >

M. Willson 氏の英語読本が明治の前期に全盛をきわめた点についての解説や独案内の隆盛についての資料や説明に大いなる興味と納得するところが多い。日本の英語教科書の歴史の変遷が、教師や学習者、社会や文化との関連でさらに研究が進められることを期待するところ大なるものがある。なお、Willson 氏の訃報を伝える 1905 年 7 月 3 日の *The New York Times* に載っている Willson 氏の探求心、研究心の記事には感動した。〈五十嵐二郎〉

私自身、独習書に関してマニュアルであまり関心がありませんでした。しかし、馬本先生の研究発表を聞いて、今後、探究していく可能性のある領域だと感じました。主に発音、訳が中心であるのは、当然だったと思いますが、私自身の興味は内容的にどうだったのか、ということです。学習者への関心を高める工夫などはなかったのでしょうか。しかし、本当によく調べられていて感服しました。ありがとうございました。〈上西幸治〉

明治期の教科ガイドに関する話を大変面白く聞かせてもらいました。当時の学習者の語学学習方法を知るうえで、貴重な資料だと思います。ただ、学習者自身がどう用いるかによって有用なものにも、有害なものにもなり得ると思いました。〈Mappy〉

これまで英語教科書に関する研究はたくさん行われてきたが、「独習書」に関する研究はあまり聞いたことがなく、とても、斬新的なご研究である。英語を日本語に訳すことが最大の学習であった当時の学生(現代も)にとって、「独習書」はとてもありがたいものであったと思われる。しかし、ご発表の中で馬本先生が「独習書」は学生のためではなく教師のためのものであったのではなからうか、とのお言葉にハッとした(私自身も、Teacher's Manual にはよくお世話になっている)。学習者のためでなく、指導者のためのものであったら、そう考えるとこれまでと違った何かが見えてくるかもしれない! ちょっとワクワクした瞬間であった。ご多忙な中での、資料収集、調査、研究にも関わらず、シャープな切り口で新鮮な観点を与えていただきありがとうございます。

〈Rainbow〉

現代の「教科書ガイド」に相当する書籍が、明治期にも存在していたことを初めて知り、大変驚くとともに、当時の学習者への親近感を抱きました。また、「独案内」が「教師用指導書」として使用されたとの事例を紹介された際には、然もありなんと感じました。さて、現代の「教科書ガイド」もそうですが、「独案内」もその活用方法次第で、所謂「良い本」にも「悪い本」にもなるように思います。実際に購入

者がどのように利活用していたのか知りたいところです。今後のご研究が楽しみです。〈堂鼻康晴〉

独案内を通して英語学習における苦心のあとをたどることは、どこに収斂して行くのか、中々難しい問題であるが、意欲的な古書蒐集を通じて、英語教育の歴史と結び付けていく姿勢に感銘を受けた。独案内の分析によって、日本人の英語下手の原因(?)がひょっとして解明されるかも知れない。こうした面でも、今後の研究に期待するところも大である。

〈風呂鞆〉

ウイルソンの第一リードル独案内の 15 と 16 は表紙が異なるのに中身が同じというのは驚きました。二人の著者はどんな関係があるのでしょうか。独案内の比較は多くの可能性を秘めた研究として話を聞いていてとても楽しかったです。〈保坂芳男〉

独案内の一次資料を体系的に収集され、そこを出発点として何をすれば研究になるのかというご発言に身が引き締まる思いがしました。独案内に付された日本語訳のための番号に接した当時の独習者は膠着語である日本語との違いを強烈に意識したのではと想像します。〈もみじまんじゅう〉

発行部数までは I, II, III などそれぞれについてはわからないのでしょうか? つまり利用者、学習者側がどうだったかということです。〈古川正昭〉

明治期の英語指導の工夫に関心。先生の資料の集め方、整理法に感服。〈dreamer〉

英語教科書には興味をもっているが、独案内の存在に今まであまり関心を払っていなかったのが、改めて英語学習に大きな影響を与えたと分かりました。馬本先生が多くの独案内を精査してその特徴を明らかにしようとしていることは、現在の英語教育の課題を解決する一助になるのではと期待が持てます。コミュニカティブが大流行の今日ですが、日本人のための英語学習方法を考えるとき、あれだけ多くの独案内を使って熱心に英語を学んだ先人の知恵を利用しない手はないと思います。文法・訳読法が最良だとは言いませんが、その良い点は取り入れて、欧米で開発された指導法を鵜呑みにせず、日本人に合った指導法を考えていくうえで、独案内は多くの示唆を与えてくれると期待しています。

更に研究を続けられて、発音、文法、解釈、作文等の分野での独案内の共通的な特徴、問題点等を整理してお示しいただければ大変ありがたいと思います。私もたまたま数冊の独案内を持っていますが、宝の持ち腐れにならないようにしていきたいと思っていますので、いろいろご指導いただければ幸いです。〈Shoko〉

ウイルソン・リーダー独案内を時系列で膨大な資料をまとめられ、明治初期の英語教科書の全体像を熱心に研究されてこられたことに敬意を表します。当時の英語教科書の独習書が英語学習者にとって必要不可欠であり、果たした役割は多大なものであったと思われます。その証として『セルフ・ヘルプ(自助論)』の翻訳『西国立志編』で有名な中村正直のサインがあることから明治初期の英語教科書としての役割は大きくそれに伴い多くの独習書が次々出版されたことは当時文法書としての役割をも果たしたのではないかと思います。英語教科書の原点の調査研究に感服いたしました。

余談ですが、1862年(文久2)堀達之助の「英和对訳袖珍辞書」初版を第一版、1866年(慶應2)堀越亀之助の改正増補版を第二版とし、長崎留学生の若い薩摩藩士たちが、洋行の費用を捻出するために、薩摩の重臣小松帯刀の斡旋で開成所の許可を得て、1869年(明治2)「日本薩摩学生編和訳英辞書」を当時長崎の宣教師フルベッキの支援を得て上海の美華書院で印刷した。この上海版を第三版と呼んでいる。この度の、ウイルソン・リーダーの英語独習書が数多く微妙にタイトルを変えながら出版されていることから、袖珍辞書のようにその価値が広く認められ所望されたのではないかと思います。

<山田宗八>

日本語と英語の違い、特に語順、文法に関して教える時、番号をつけることは、今でも利用しています。これはしっかり生かすべき英語指導の知恵だと思います。<くりす>

仲々おもしろい研究だと思いました。「アンチョコ」は役に立つこともあるけれど、ある程度力がついてきたら、わずらわしく感じるので、保存されていないだろうなと思います。よく残っているなとい

うのと本の作りがしっかりしているのに驚きました。明治18年に出版されたのに、よく保存がいいなど。

<田村真一>

#### 【研究例会全体について】

まず大学の門からのアプローチの新緑とつつじの花の美しさに目を奪われました。周到な準備と運営をしていただき感謝しております。研究例会後の食堂での懇親会も出席された先生方と和やかに話でき楽しいひと時でした。<安部規子>

参加者も多く、研究発表も質疑応答も充実しており、よい例会になりました。<Emma>

この度の研究例会も事務局、幹事の皆さんのパーフェクトな準備でとても心地よい研究例会でした。また、支部長の竹中先生が入手される貴重な史料やご自身の抜き刷りを会員に配布して下さる伝統(?)は他の学会にはあまりない嬉しい慣行です。

<もみじまんじゅう>

研究発表の部は、発表者の日頃の研究成果を具体的に興味深く拝聴でき、質疑も活発でとても参考になりました。また、懇親会も本当に和やかな雰囲気、ざっくばらんに研究の苦労話等が聞け、今後の自分の取り組みに大きな示唆を得ることができました。事務局の方には本当にお世話になりました。今後ともどうかよろしく願います。<Shoko>

始終、充実した研究会で刺激を得ました。ありがとうございました。<くりす>

実りある研究例会でした。発表者の先生方にお礼を申し上げます。<風呂鞆>

いつもお世話になります。<保坂芳男>

とても面白い話ばかりで勉強になりました。

<古川正昭>

いつもながら触発されます。<dreamer>

## 英学史情報ひろば

『The Open Mind of Lafcadio Hearn』(「小泉八雲に捧げる造形美術展」作品写真集)2010。/小泉凡「ノルマンディー小旅行:ルーツをもとめて」『のんびり雲』4(島根県立大学短期大学部総合文化学科,2010)/小泉凡「被災地で考えたこと」『山陰中央新報』(2011.6.18.)ほか[小泉凡先生より]

第129~134回「広島ラフカディオ・ハーンの会」ニュース(2011年5月~10月)[風呂鞆先生より]

五十嵐二郎「小学校英語の必修科に思う:押えるべきところはきちんと押える(上・下)」『教育新聞』(2011.7.14./7.18.)[五十嵐二郎先生より]

日本英語教育史学会第27回全国大会(2011.9.17~18. 県立広島大学広島キャンパス)支部会員によるシンポジウム 研究発表は次の通り。  
・「資料が語る広島の英語教育史(シンポジウムと資料展覧)」パネリスト:竹中 龍範(香川大学)・江利川 春雄(和歌山大学)・馬本 勉(県立広島大学)  
・「新制高校における英語学力評価:昭和20年代後期英語教育史」隈 慶秀(福岡県立明善高等学校)  
・「明治初期の小学校における英語教育:京都番組小学校の事例を中心として」保坂 芳男(立命館大学)  
・「第六高等学校入学試験英語問題に挑む」田中 正道(広島大学名誉教授)

## 中国・四国支部ニューズ

### 平成23年度第1回理事会

5月28日(土)の支部総会に先立ち、午前11時より理事会を開催しました(出席者7名)。前年度活動報告、会計報告・会計監査報告、新役員の選出、今年度の活動計画について審議を行いました。

### 平成23年度支部総会

5月28日(土)13時30分より、議長として堂鼻康晴会員を選出し、今年度の支部総会を行いました。

### 平成22年度活動報告

事務局より昨年度の活動について報告。内容は、(1)支部総会、(2)第1回研究例会(広島)、(3)第2回研究例会(高松)、(4)『英学史論叢』第13号の発行、(5)『ニューズレター』No.62~No.65の発行、(6)理事会の開催(第1回、第2回)、の6項目です。詳細は『英学史論叢』第14号(pp.43-45)をご覧ください。

### 平成22年度会計報告

#### [収入]

繰越金	119,062
年会費	135,000
紀要掲載料	22,000
紀要売上	3,000
補助金	16,000
預金利子	16
収入合計	295,078 円

#### [支出]

通信費	22,050
紀要印刷費	88,410
会場使用料	3,339
事務費	1,020
会議費	3,646
事務用品	3,708
雑費	682
支出合計	122,855 円

[次年度繰越金] 172,223 円

以上、ご報告申し上げます。

平成23年5月1日 会計 馬本 勉<sup>㊞</sup>

### 平成22年度会計監査報告

本学会の会計を、収入並びに支出に関して、それぞれ関係書類、及び領収書等により監査いたしました。その結果、全て適正、正確に会計処理ができていたことを確認いたしました。

以上報告いたします。

平成23年5月22日 会計監査 山本勇三<sup>㊞</sup>

鉄森令子<sup>㊞</sup>

### 【平成23~24年度役員】

支部長	竹中 龍範
副支部長	田村 一郎・田村 道美・松岡 博信
顧問(相談役)	小篠 敏明・定宗 一宏・寺田 芳徳・松村 幹男
顧問	五十嵐 二郎・小泉 凡
理事	上杉 進・河口 昭・田中 正道・築道 和明・能登原 昭夫・深澤 清治・風呂 鞏
事務局長	馬本 勉
幹事	隈 慶秀・中舛 俊宏・能登原 祥之・保坂 芳男
会計監査	鉄森 令子・山本 勇三

### 今年度の活動計画

#### 1) 研究例会

・第1回 平成23年5月28日(土)  
(予定通り終了)

広島市・県立広島大学広島キャンパスにて  
例会当日、理事会および支部総会を開催

・第2回 平成23年12月10日(土)  
岡山県津山市・津山洋学資料館にて  
例会当日、理事会を開催予定

#### 2) 支部研究紀要

『英学史論叢』第14号(予定通り発行)

#### 3) ニューズレター

No.66(平成23年5月)(発行済み)  
No.67(平成23年8月)  
No.68(平成23年11月)  
No.69(平成23年1月)

### 訃報

松村幹男先生 支部顧問(相談役)の松村幹男先生におかれましては、かねてより療養中でいらっしゃいましたが、平成23年7月23日にご逝去なさいました。謹んでご冥福をお祈りいたします。(次ページより、竹中支部長による弔辞を掲載いたします。)

## 松村幹男先生ご逝去



平成23年7月24日(日)夕刻より、広島市南区皆実町の平安祭典にて通夜祭・遷霊祭、翌7月25日(月)正午より同会場にて葬場祭がおこなわれました。

全国各地より、英語教育関係者をはじめ多数の参列者が集いました。葬場祭では竹中龍範支部長によって弔辞が読み上げられました。以下に全文を掲載いたします。

研究発表をされる松村幹男先生：平成22年度第1回(通算62回)研究例会(2010年5月29日、比治山大学)にて  
(中国・四国支部「ニューズレター」No.63より)

### 弔 辞

本日ここに日本英学史学会中国・四国支部ならびに日本英語教育史学会を代表して、松村幹男先生の御霊に御礼とお別れとを申し上げます。

先生は、櫻井役先生、定宗數松先生によって築かれた広島英学史・英語教育史研究を継承され、長年にわたって日本英学史・英語教育史の研究を続けて来られました。そのご研究は、淡々と、しかしながら、実証的に史実を明らかにされ、これをつないで、先生のお言葉をお借りすれば、点から線、線から面へと拡げていく手堅い手法によるもので、独断的な解釈に走られることなく、まさに広島の学統を継ぐものでした。私などは、生意気にも、時にそれに物足りなさを感じて、いかが解釈されるのですかと迫ったことがありましたが、それが学位論文に集約されるはずのもので、そこに設定された遠大な目標の下にすべてが組み立てられていたことを知ったときには堪え難い慙愧の念に襲われたことを思い出します。そうして積み上げられたご研究の成果は『明治期英語教育研究』と題する博士論文として広島大学に提出され、教育学博士の学位を受けられました。これはのち平成九年に辞游社から公刊され、英語教育史研究の方法を若い研究者にお示しいただきました。その後も意欲的にご研究を続けられ、昨年十月、京都大学において開催された日本英学史学会全国大会には病を押してご参加になられ、奥様のご介助を得られながら研究発表をこなされて、それを本年五月に発行された私ども日本英学史学会中国・四国支部の紀要『英學史論叢』第十四号にお寄せくださいました。不撓不屈とは先生のためにある言葉かと思うくらいに、精力的にご発表、ご執筆を続けてこられました。

この学界に対するご貢献については、常に広島の学統を守るに止まらず、日本英学史学会本部からも大きな評価を得られ、平成九年十月に開催された全国大会においては、さきの『明治期英語教育研究』によって同学会の豊田賞を受賞になりました。奇しくもこの全国大会は私どもの香川大学にて開催され、大会実行委員長を務めた私にとっても大きな喜びとなりました。一方、日本英語教育史学会においては、初代会長の出来成訓先生から、学会発足に際しては、松村先生、寺田先生と言った広島の先生方から大変に助けていただいた、有難かったとお聞きしております。

先生の残されたご足跡はかくも大きく、後進のために敷かれたレールは堅固を極め、さらにはそのレールの上を機関車としてひた走られて、次の世代の牽引役をも担っていただきました。そのレールの上を機関車の後について走り来た私どもの世代にとっては、先生の跡を継いで、先生からすると孫弟子の世代を育てることが先生の学恩に報いることかとその責の重さに思いをいたしております。



翻って、私事ながら、先生と私とのつながりは、その始まりがいつだったのかと思ひ起こしますと、どうもそれはすれ違いで始まったように思います。私が広島大学教育学部に入学したのは昭和四十六年、まだ大学紛争の余焰がくすぶっていた頃でしたが、その時には先生はハワイ大学のイースト・ウェスト・センターにご留学中でした。その四年後、学業半ばで父が急逝し、しばらく迷った後に大学院進学を決心し、昭和五十年に大学院教育学研究科に入学した際には、先生はロンドン大学にてご研鑽を積んでおられる最中でした。その先生と強い接点ができしたのは、昭和五十二年、日本英学史学会広島支部が発足する、その準備委員会にお誘いいただいた時でした。学部三年次の「外国語教育史」の授業を受講した際に、冬休みの宿題として課されたレポートにわが故郷、近江彦根の洋学史を取り上げてまとめたものを高く評価していただいたことがあり、それを覚えて下さっていて、「君はどうやら歴史に興味があるようだが、英学史という学問があって、こんどその学会の広島支部を作るのだが、ちょっと覗いてみないか」とお誘いいただいたのが最初でした。私が大学院の博士課程後期一年生の時でした。これがきっかけとなり、学会事務局のお手伝いをするうちにこの領域の研究に興味がわいてきて、当時まだコミュニケーションという名も定着していない最先端の新しい教授法に向いていた関心が百八十度返って、明治だ、大正だ、やれ幕末だと、古いところに興味が移ってしまいました。その後は、広島を離れ、四国の方に教鞭を執ることとなりましたが、いかなる巡り合わせか、着任した香川大学には神原文庫という蘭学史・英学史の貴重文献を含む一大文庫が蔵されており、環境は整ったとばかりに、英学史・英語教育史の研究にのめりこむことになりました。松村先生との出会いがなかったら、自分は今どんなことをやっていたらうか、果たして研究者と呼んでもらえる人生を送っていたらうかと、歴史研究に許されない「if、もしも」ということを思ったりすることがあります。今日、私が日本英学史学会中国・四国支部支部長、日本英語教育史学会会長としてなにがしかのお勤めを果たすことになったその就任の際にもその都度、ご祝辞と激励とをいただきましたが、その原点はすべて松村先生との出会いにあったと言えようかと思ひおります。有難うございました。

最後になりますが、先生は学問においては厳しい方でしたが、一旦、研究室やご自宅の書斎を離れると人との和を大切にされる方で、それをよいことに、学部生、院生時代にご自宅にお邪魔したことは一再に止まらず、その度にご家庭にあられてはよきお父様のお姿をうかがいました。御賢息雅文さんが子どもころに天体に興味をもたれると、望遠鏡をかついで朝まだ明けやらぬ暗いうちから一緒に比治山に登られたとのお話を伺ったこともあります。今やその雅文さんは香川大学教育学部に私どもの同僚としてご活躍いただいています。ご専門の天文学は言うまでもなく、江戸後期、文化文政から天保時代にその偉才を発揮した讃岐の久米通賢が残した天文学上の業績を発掘し、それを科学史の観点から分析されており、ご尊父幹男先生の血が脈々と流れていることが感じられます。

二人のお嬢様、瑞枝さん、倫子さんにもお好きな道を歩まれるうえで惜しみない愛情を注がれ、立派に育て上げられました。お二人とも先生のご専門とは異なる方面に進まれましたが、その大学卒業時には卒論作成について、伊澤修二関係などの古い資料は先生がお手伝いになられたと伺っております。

先生の思い出は尽きません。何時間をかけて語ろうとも語りつくせるものではありません。何百、何千枚の原稿用紙を費やしても記し終えられるものではありません。しかし今ここにお別れしなければならぬ時を迎え、長い時間をご一緒させていただいたこと、厳しくも温かいご指導をいただいたことに御礼を申し上げ、御霊安かれとご冥福をお祈り申し上げます。

平成二十三年七月二十五日

日本英学史学会中国・四国支部支部長  
日本英語教育史学会会長

竹中 龍範

## 英学史学会全国ニュース

日本英学史学会第48回全国大会(10月8日~10日,東京家政大学板橋キャンパス)。支部会員による研究発表は次の通り。

- ・保坂芳男「H. D. Leland に関する研究(2): リーランドの日記の分析を中心に」

「日本英学史学会報」No.125 (9月1日)

- ・史に聴けば (23) 幻の資料発見 (佐光昭二)
- ・日英教育文化交流史の研究 (加藤詔士)
- ・洋学史散歩(1): 浅草天文台跡 (堀 孝彦)

支部活動報告として、中国・四国支部平成23年度総会ならびに第1回(通算64回)研究例会報告、『英学史論叢』第14号の目次などが掲載されています。

日本英学史学会(本部)の会員登録には、中国・四国支部とは別に手続きが必要です(入会金2,000円,年会費7,000円)。

「日本英学史学会九州支部会報」37号(8.18.)および『熊本日日新聞』に掲載された英学史関係記事(「熊本洋学校米国人教師・ジェーンズ来熊140年シンポ」「ハーンの新聞社説見つかる」ほか)[九州支部長・西忠温先生より]

閲覧希望の方は、事務局までご連絡ください。

## 中国・四国支部事務局より

年会費納入のお礼とお願い

すでに多数の会員の皆様より今年度の会費(一般3,000円,学生2,000円)をご納入頂いております。ご協力に感謝申し上げます。これからお振込みの方は下記口座までよろしくお願いいたします。

(口座番号) 01360-9-43877

(加入者名称) 日本英学史学会 中国・四国支部

紀要の配布・販売について

研究紀要『英学史論叢』は、会員の方へ一部ずつ、投稿者には所定の部数をお渡ししています。さらに追加でご希望の方には、一部1,000円(非会員1,500円)にて販売いたします(郵送料込)。バックナンバーに掲載の研究論考等のタイトルは、『英学史論叢』第10号もしくはウェブサイトにてご確認いただけますが、詳細は事務局までお問い合わせください。

## 第2回研究例会(津山例会)について

今年度第2回(通算65回)研究例会は、2011年12月10日(土)、津山洋学資料館(岡山県津山市)を会場に開催されます。

当日は、津山・岡山の英学を中心とした講演、研究発表を予定しています。懇親会では、「大槻玄沢が長崎出島で食したオランダ料理の再現」も企画されています。

詳細は次号のニューズレターにてお知らせします。ぜひご参加くださいますようお願いいたします。

新入会員(敬称略)

古川 正昭(広島県) 学習塾経営  
上西 幸治(大阪府) 摂南大学

**広島英学史の周辺(33)** 松村幹男先生の『高校生の総合英語解説』(文化評論出版,1967)は、「結論を先に言おう。英語の勉強は、決して楽ではない」という言葉で始まる。第1章は15ページにわたる「英語の勉強法」。英語学習に不向きな性質、英語学習法の基本ルールについて論じた上で、「リーダー」と「文法・作文」それぞれの予習の実際、復習の実際が丁寧に説かれている。不向きな性質(疑ってかかったり、理屈で解決しようとする)は、英語の勉強のときだけは改めよう、と促す。「リーダー」の学習法として「復文」が取り上げられているのも印象的だ。勉強法に続いて、全編にわたり品詞から構文までの文法項目が取り上げられ、豊富な例文と解説が施されている。この書は1968年に改訂版、1977年に三訂版が出され、書名も『新〜』『新々〜』へと変わった。初版以降のはしがきには協力者への謝辞が綴られ、小篠敏明先生、金田道和先生、岡田秀昭先生らのお名前がある。監修の江川泰一郎先生は、「本書にもられている『きめのこまかい解説』については、さすがは、氏の深い学識と体験のたまものと監修者の立場を離れて、むしろ学習者のために喜ぶたい」と結んでおられる。松村先生がお書きになられた書物を読み返し、私たちが今、何をすべきかを問い直す日々が続いています。ニューズレターの発行が大幅に遅れましたことを心よりお詫び申し上げます。(馬)

日本英学史学会 中国・四国支部ニューズレター No.67

2011年10月10日発行

発行 日本英学史学会中国・四国支部(代表 竹中龍範)

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町562

県立広島大学 馬本研究室内

電話&FAX: (0824) 74 - 1725 (直通)

e-mail: eigaku@tom.edisc.jp

ホームページ <http://tom.edisc.jp/eigaku/>

郵便振替口座 01360-9-43877 日本英学史学会中国・四国支部

Newsletter No.67